

## 6. 人間環境学府

(1) 人間環境学府の教育目的と特徴	6-2
(2) 「教育の水準」の分析	6-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	6-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	6-17
【参考】データ分析集 指標一覧	6-19

(1) 人間環境学府の教育目的と特徴

1. 地球規模で複雑に多様化する傾向にある人間環境を取りまく諸問題を多面的視点から科学的に解明し、人間にとって最適な環境のあり方とその創造の方向を探り、新時代の共生社会をリードする役割を果たす人材を組織的に養成することを教育目的とする。
2. 上記1を達成するために、人間そのものを科学する領域、人間を取りまく環境を科学する領域、それら両者の関係を科学する領域との間で有機的な連携を図りながら人間と環境を一体的にとらえた文理横断型学際教育を行い、高度な知識やスキル並びに創造性や問題解決能力の獲得を教育目標とする。
3. 上記1で示した人材養成を行うために、以下のような教育課程を編成する。

課程	内容
修士	各専門分野の高い専門性を身につけるための授業を開講するとともに、文理横断による学際的な志向性を育むために、「人間環境学」、「学際連携研究法」、「学際研究論」を開講している。また、各自が所属するコースのみならず他のコース、他の専攻の科目を幅広く履修し、学際的な知識やスキルを習得可能なシステムを構築している。
博士後期	高度の専門的知識の習得とともに、独自の研究方法を展開する能力を養成し、高等教育機関において教育・研究に従事する専門研究者を育成する指導体制を取っている。
専門職学位	臨床現場での実習中心のカリキュラムを編成し、実務家教員が各臨床領域（教育、福祉、医療・保健）を担当し、幅広い臨床実践能力の獲得が可能な指導体制を取っている。

4. 文理横断型学際授業科目「人間環境学」、学生主体の企画・運営による「人間環境学コロキウム」、学際研究教育コーディネータ委員会による専攻の壁を越えた「多分野連携プログラム」を実施し、文理横断型学際教育に重点を置いている。

5. 学府の構成は以下の通りである（※Cはコース、Pはプログラムを表す）。

専攻	課程	コース・プログラム※	専攻	課程	コース・プログラム※
都市共生デザイン	修士	アーバンデザイン学C	教育システム	修士	現代教育実践システムC
		都市災害管理学C			総合人間形成システムC
		持続都市建築システム国際C			国際社会開発P
		キャンパス・アジア・ダブル・ディグリーP		博士後期	教育学C
	持続都市建築システムP	建築計画学C			
博士後期	都市共生デザイン学C	空間システム	修士	建築環境学C	
持続都市建築システム国際C	建築構造学C				
人間共生システム	修士・博士後期			共生社会学C	持続都市建築システム国際C
				臨床心理学指導・研究C	キャンパス・アジア・ダブル・ディグリーP
行動システム	修士・博士後期			心理学C	持続都市建築システムP
		健康・スポーツ科学C	空間システムC		
実践臨床心理学	専門職学位		博士後期	持続都市建築システム国際C	

## (2) 「教育の水準」の分析

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

#### <必須記載項目1 学位授与方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針  
(別添資料 7306-i1-1)

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

#### <必須記載項目2 教育課程方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針  
( (再掲) 別添資料 7306-i1-1)

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

#### <必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料  
(別添資料 7306-i3-1～3)
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料  
(別添資料 7306-i3-4)  
( (再掲) 別添資料 7306-i1-1)
- ・ 研究指導、学位論文(特定課題研究の成果を含む。)指導体制が確認できる資料  
( (再掲) 別添資料 7306-i3-3)  
(別添資料 7306-i3-5～6)

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学府の教育目的を実現するために、それぞれの専攻・コースにおいてカリキ

## 九州大学人間環境学府 教育活動の状況

ユラムマップを作成し、所属するコースのみならず他のコース、他の専攻の科目を幅広く履修し、学際的な知識やスキルを習得できるようにしている。また、人間環境学が実践的・実証的な科学であることに鑑み、フィールドワークや実践的な演習・実験を重視した教育を行っている。[3.1]

( (再掲) 別添資料 7306-i3-1~3)

(別添資料 7306-i3-7)

- 新時代の社会的ニーズに対応した先端的・先導的役割を果たす学際的視点を持った研究者及び高度専門職業人を育成するために各専攻・コースにおいて、必要となる学位プログラムを準備している。なかでも、都市共生デザイン専攻と空間システム専攻では、2017年度に、文部科学省の大学の世界展開力強化事業である「キャンパス・アジア」(日中韓の三カ国における大学間で1つのコンソーシアムを形成し、単位の相互認定や成績管理、学位授与等を統一的に行う交流プログラム)に採択され、同済大学と釜山大学と共同でダブル・ディグリープログラムを導入している。参加学生は1 Semesterもしくは1年間、海外の大学へ留学し、各大学の必要単位数を取得することで、2大学の学位を同時に取得することができる。また、3大学(韓国・中国・日本)協働でサマースクール等も実施しており、これを活用した短期派遣も行っている。[3.2]

(別添資料 7306-i3-8~9)

- 教育システム専攻では、社会課題や人材需要を踏まえた学位プログラムとして、社会人特別選抜による教育実践経験のある社会人のための昼夜開講のコースを設置し、ストレートマスター等との共学共修を行っている。[3.2]

(別添資料 7306-i3-10~11)

- 都市共生デザイン専攻と空間システム専攻では、2009年に九州大学が国際化拠点整備事業(グローバル30)に採択されたことに伴い、2010年4月に「持続都市建築システム国際コース」を、両専攻にまたがって修士課程と博士後期課程に設置し、国外から積極的に学生を受け入れている。[3.3]

(別添資料 7306-i3-12)

- 高度汎用的な知識・技術・態度(「ハイエンド・リテラシー」)を涵養する大学院基幹教育科目を開いている。[3.5]

(別添資料 7306-i3-13)

- 社会のニーズに対応した人材の養成を行うために、学修課題を複数の科目等を通して体系的に履修するコースワーク設定している。[3.5]

(別添資料 7306-i3-14)

＜必須記載項目 4 授業形態、学習指導法＞

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料  
(別添資料 7306-i4-1)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料  
(別添資料 7306-i4-2～3)
- ・ 専門職大学院に係る CAP 制に関する規定  
( (再掲) 別添資料 7306-i3-3)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数  
(別添資料 7306-i4-4)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料  
(別添資料 7306-i4-5)
- ・ 指標番号 5、9～10 (データ分析集)

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 都市共生デザイン専攻では、「アーバンデザインセミナー」などにおいて、実際の市街地を対象に、学生がグループで主体的に研究テーマを設定し、住民らへの聞き取り調査を行う演習を多数実施しており、アクティブラーニングおよびフィールドワークの機会を提供している。[4.1]  
(別添資料 7306-i4-6)
- 都市共生デザイン専攻と空間システム専攻で開講する「都市建築コロキウム」では、都市や建築の持続性の向上のためには多分野の研究者と産業界が密接に連携し、学際的に取り組むことが求められることから、関連する業界の最前線で活躍する経営者、実務者を講師として招聘し、都市建築に関する専門的知識や情報を提供する講義と討論を通して 21 世紀の高度専門職業人に求められる専門性やスキル等の習得を目指しており、大学院生のキャリア開発としても機能している。また、講義のほかにも、複数の修了生を招き、専門分野に応じて大学院修了後のキャリアと専門分野のトピックを学ぶ機会も設けており、大学院生の自身の専門分野を活かしたキャリア設計を支援している。[4.1][4.5]  
(別添資料 7306-i4-7)
- 都市共生デザイン専攻と空間システム専攻の持続都市建築システム国際コースにおける「Sustainable Design Camp」では、国内と海外の 2 か所において短期間のワークショップを行い、普段、計画系、環境系、構造系などの専門分野に分かれている受講学生を学際・横断的な混成チームに再編成し、持続的な都市・建築

## 九州大学人間環境学府 教育活動の状況

デザインの提案に取り組んでおり、海外の学生との協働作業や議論を通して、鳥瞰力・国際力・実践力の養成を行っている。[4.1]

(別添資料 7306-i4-8)

- 都市共生デザイン専攻と空間システム専攻では、社会のニーズに対応した取組として、建築や都市に関連する企業や行政等における実習経験に対して、「建築インターンシップ」として単位認定を行っている。このインターンシップでは、修士課程を通じた合計 150 時間以上の建築設計管理業務の補助などの実習をもって 5 単位を認定しており、学生の実務体験の場として重要な役割を果たしている。[4.2]

(別添資料 7306-i4-9)

- 空間システム専攻の「建築デザインスタジオ」（いくつかのグループ（スタジオ）に分かれて、具体的な敷地における建築や都市の設計を行う演習）では、国土地理院の地図情報や Google Map のストリートビューによって課題の対象敷地の状況を確認することで、日本だけでなく海外などの遠方の敷地を対象とすることも可能となっている。また海外に出張中の教員や学外にいる非常勤講師からの指導も可能にするために、テレビ会議システムや、SNS、クラウドサーバーを活用し、学生の作業情報を共有しながら講評会などで議論を進めている。さらに、課題を進める中で利用する模型の制作の一部には、3D プリンターやレーザー加工機を用いており、制作された模型を 3D スキャナーで読み取り、3D データとして、次のデザインに活用している。[4.3]

(別添資料 7306-i4-10~11)

- 人間環境学府には、心理学、教育学、社会学、比較宗教学、健康スポーツ科学、文化人類学、建築学などの教員が所属しており、学際的な授業の他に、それぞれが専門分野の授業を開講している。どの専攻の学生もこれらの授業を受講することができ、取得した単位は修了要件の単位として算入できる。また、入学のオリエンテーションで、上記の履修システム、コースワークや教員陣容について解説することで、学生の興味関心に応え得る研究・教育体制であることを示し、学生が自身の研究の推進に必要な情報にアクセスしやすい環境を整えている。[4.4]

(別添資料 7306-i4-12~13)

- 論文等指導の工夫として、修士課程では主指導教員と副指導教員を 1 名ずつ、博士後期課程では、主指導教員 1 名、副指導教員 2 名で研究指導を行う複数指導教員体制をとり、学生へのきめこまやかな指導に当たっている。[4.5]

( (再掲) 別添資料 7306-i3-5~6)

- 都市共生デザイン専攻と空間システム専攻で開講する「都市建築コロキウム」

は、理論と実務の関わり合いを深く理解することに対しても機能している。[4.6]

( (再掲) 別添資料 7306-i4-7)

- 教育システム専攻では、社会人特別選抜による、教育実践経験のある社会人のためのコース（現代教育実践システムコースに含まれる）を、昼夜開講のコースとし、ストレートマスター等との共修による理論と実践との往還促進を図っている。[4.6]

( (再掲) 別添資料 7306-i3-10)

- 都市共生デザイン専攻の「Architecture and Urban Design Studio」や持続都市建築システム国際コースの「Sustainable Design Camp」では、学生自らがそれらの成果を冊子としてまとめており、提案や作品の内容をより分かりやすいストーリーとデザインで再構築する訓練になっている。一方、その成果物は、授業において題材とした地域の住民や行政などの協力者に還元され、地域の課題やその対策などの知見を共有するための効果的なツールとなっている。[4.7]

(別添資料 7306-i4-14)

## <必須記載項目5 履修指導、支援>

### 【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料  
(別添資料 7306-i5-1)
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料  
(別添資料 7306-i5-2)
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料  
(別添資料 7306-i5-3)
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料  
(別添資料 7306-i5-4)

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学習環境の整備の一環として、2018年10月の九州大学伊都キャンパス移転に伴って、都市共生デザイン専攻・空間システム専攻においては、建築構造実験棟、環境実験棟、製図室・工房、行動システム専攻では、心理学に関連する実験を行うための研究施設として行動実験棟、人間共生システム専攻臨床心理学指導・研究コース・実践臨床心理学専攻においては、総合臨床心理センターが整備され、実習と実践的な学習が効率的に行われている。いずれの建物も最新のシステムや

## 九州大学人間環境学府 教育活動の状況

機器を導入し、学習支援、学習意欲向上の一助となっている。[5.1]

(別添資料 7306-i5-5~7)

- 教育システム専攻では、修士論文中間発表および博士後期課程中間発表を、専攻内の必修としている。また、それぞれの中間発表や論文の口述試験は、すべて公開とし、発表者や口述試験を受験する学生以外の学生にとっても、論文執筆を含む学習意欲の喚起と学習奨励の貴重な場として設定されている。また、「教育学研究入門」及び「教育学研究法」については、原則として必修としており、本学教育学部以外からの進学者にも、教員の教育研究を紹介し、より広い教育学研究の導入教育を行っている。[5.1]

(別添資料 7306-i5-8)

- 教育システム専攻では、学習環境の整備として、事務業務時間外に来学する社会人学生のサポートを行う部屋「リカレント教育支援室」を設けた。また、社会人学生が授業を受けやすいように6限(18:30~20:00)、7限(20:05~21:35)に開講し、教育学部門支援スタッフを置いて、平日夜間に社会人学生の諸手続きをサポートしている。こうした学習環境については、入学オリエンテーションで、人間環境学府に設置された社会人教育企画室・室長(人間環境学府教員からの互選)から、社会人学生に説明し、周知を図っている。また、社会人学生については、「教育学研究入門」、「教育学研究法」で各教員の研究内容、研究方法を、一通り講義を受けた上で指導教員を選択できるよう、入学後半年間あけて、指導教員届を出すようにしている。これらの配慮の結果、教育システム専攻では、2016年度4名(修士2名、博士2名)、2017年度8名(修士8名、博士0名)、2018年度5名(修士4名、博士1名)、2019年度2名(修士0名、博士2名)の社会人入学者があった。また、学府HPには、社会人特別選抜についてのQ&Aを掲載している。こうした取り組みにより、社会人のリカレント教育の推進に貢献している。[5.1]

( (再掲) 別添資料 7306-i5-8)

(別添資料 7306-i5-9~11)

- 都市共生デザイン専攻と空間システム専攻の学生の多くは工学部建築学科からの進学者であるため、その工学部建築学科の同窓会(松遙会)九州支部のイベントに修士1年生を無料招待し、就職活動に取り組む学生がOB・OGに直接進路相談できる場を設けることで、キャリア形成の支援をしている。本イベントは教員も協力して実施しているものである。[5.3]

(別添資料 7306-i5-12)



<必須記載項目6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準  
(別添資料 7306-i6-1)  
( (再掲) 別添資料 7306-i4-2)
- ・ 成績評価の分布表  
(別添資料 7306-i6-2)
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料  
( (再掲) 別添資料 7306-i6-1)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学習の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行っている。[6.1]  
( (再掲) 別添資料 7306-i6-1)  
( (再掲) 別添資料 7306-i4-2)
- 九州大学が授与する学位の審査において、審査の透明性及び客観性の確保に努め、そのための体制の一つとして厳正な学位審査のための通報窓口を設置している。[6.2]  
( (再掲) 別添資料 7306-i6-1)  
( (再掲) 別添資料 7306-i4-3 72頁)

<必須記載項目7 卒業(修了)判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定  
(別添資料 7306-i7-1)  
( (再掲) 別添資料 7306-i3-3)
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業(修了)判定の手順が確認できる資料  
( (再掲) 別添資料 7306-i3-5~6)
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準  
(別添資料 7306-i7-2~3)

## 九州大学人間環境学府 教育活動の状況

( (再掲) 別添資料 7306-i3-5~6)

- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料

(再掲 別添資料 7306-i7-1~3)

(再掲 別添資料 7306-i3-5~6)

- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料

(再掲 別添資料 7306-i7-1~3)

(再掲 別添資料 7306-i3-5~6)

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 修了判定において、取得単位数や修了研究成果だけではなく、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力が身につけているかも含めた判定を実践している。[7.1]

( (再掲) 別添資料 7306-i1-1)

( (再掲) 別添資料 7306-i4-3 70 頁)

- 学位論文については、本学府のディプロマ・ポリシーに基づき、評価基準を設け、より総合的に評価し、最終的な修了判定については学府教員（講師以上）が構成員となる教授会にて審議し承認される。[7.2]

( (再掲) 別添資料 7306-i1-1)

( (再掲) 別添資料 7306-i4-3 修士：51 頁、博士：55、66 頁、基準：70 頁)

## <必須記載項目8 学生の受入>

### 【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料  
( (再掲) 別添資料 7306-i1-1)
- ・ 入学定員充足率  
(別添資料 7306-i8-1)
- ・ 指標番号1～3 (データ分析集)
- ・ 指標番号6～7 (データ分析集) ※補助資料あり (別添資料 7306-i8-7)

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学際教育による多様な視点を備えた人材養成を踏まえ、留学生の入学時期を考慮した10月入学や社会人を対象とした社会人特別選抜を積極的に行っている。

## 九州大学人間環境学府 教育活動の状況

また、国際化を推進するため、TOEFL 等を利用した入試を全専攻で実施している。入学者選抜の実施状況でも、外国人留学生特別選抜及び社会人特別選抜ともに毎年度入学者が存在しており、選抜に関する取組の効果が出ていると言える。[8.1]

(別添資料 7306-i8-2 修士：8～14 頁 博士 27～29 頁)

(別添資料 7306-i8-3)

- 都市共生デザイン専攻修士課程では、冬季入試において、社会人や異分野などから実践業績又は研究業績を有する人材を幅広く受け入れ、志願者増加策を講じている。[8.1]

(別添資料 7306-i8-4)

- 都市共生デザイン専攻と空間システム専攻の持続都市建築システム国際コースでは、都市・建築にとどまらず、様々な領域を俯瞰し、持続化をキーワードとして現代社会の課題に向き合える学生を国外から積極的に受け入れている。[8.1]

(別添資料 7306-i8-5)

- 都市共生デザイン専攻および空間システム専攻のダブル・ディグリープログラムにおける 2017 年度の制度導入以降の 2 年間の派遣・受入数は合計 15 名で、2019 年 3 月には 1 名、2020 年 3 月には 6 名がダブル・ディグリーを取得している。[8.1]

( (再掲) 別添資料 7306-i3-9)

- 教育システム専攻では、学部の海外フィールドワークにおいて、大学院生を TA として同行させ、中国、台湾、韓国、タイ、ベトナム等の学術および学生交流協定締結校の学部学生、および、大学院生ともに、英語講義聴講、交流先の学生(院生含む)との英語など多言語での交流(教育学の専門テーマを含む)、現地の高校生への教育学講義を行うといった、連携協力事業を実施している。九州大学からは、2016 年中国上海 4 名、2017 年台湾 1 名、中国 3 名、2018 年台湾 4 名、中国 4 名、2019 年タイ、ベトナム各 1 名の大学院生を派遣した。現地訪問先の高校生は、中国、タイ、ベトナムにおいて各々 100 名以上、協定校の大学生、大学院生は、中国、タイ、ベトナムにおいて数名～10 名程度の参加があった。なお、院生を伴わず、教員だけのリクルートとして、2018 年にタイ、中国、ベトナム、2019 年にタイ、モンゴル、マレーシア、韓国で高校、大学訪問をおこない、リクルート活動を行なった。また、2018 年 8 月には、九州大学、東北大学、筑波大学、広島大学、名古屋工業大学、九州産業大学、大阪大学、名古屋大学、大阪市立大学と合同で大規模なリクルート活動につながるシンポジウムと保護者懇談会を、中国(上海、深圳)で 2 回行った。互いの大学院生、および大学院進学希望の学部

## 九州大学人間環境学府 教育活動の状況

学生がこうした連携協力事業で顔をあわせることにより、今後、協定締結校からの研究生留学、および、その後の大学院進学が期待される。[8.1]

(別添資料 7306-i8-6)

- 学際的視点を持つ研究者及び高度専門職業人を目指す人、人間と環境に関わる諸問題を多面的視点から科学的に解明したい人を積極的に受け入れることを方針としている。[8.2]

( (再掲) 別添資料 7306-i1-1)

- 学生定員並びに現員に関しては、修士課程、博士後期課程ともに充足率は4年間一貫して高い水準にある。このことは、入学選抜における工夫による成果並びに社会からの需要の高さを反映したものと言える。[8.2]

( (再掲) 別添資料 7306-i8-1)

### <選択記載項目 A 教育の国際性>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数  
( (再掲) 別添資料 7306-i4-4)
- ・ 指標番号 3、5 (データ分析集)

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 都市共生デザイン専攻および空間システム専攻の持続都市建築システム国際コースでは、2016年度以降、修士課程12名、博士後期課程3名が修了した。[A.1]  
( (再掲) 別添資料 7306-i3-12)

- 都市共生デザイン専攻ならびに空間システム専攻におけるダブル・ディグリープログラムの一部として、毎年開催される短期プログラムに学生を派遣し、2018年度のプログラム開始からの2年間に、延べ126名の学生を派遣し、延べ41名の学生を受け入れている。また、セメスター(3ヶ月以上の)交流プログラムでは、延べ11名の学生を受け入れている。長期派遣を含めるとプログラム開始以降の2年間で延べ131名の学生を派遣している。一方、プログラムの詳細を検討するため、3大学のコアメンバーによって構成されるキャンパス・アジア委員会を構成し、協働で修士論文査定を行う共同学位授与プロセスを構築した。2018年12月には第1回修士論文発表会および修士論文査定が実施された。[A.1]

( (再掲) 別添資料 7306-i3-8)

( (再掲) 別添資料 7306-i3-9)

## 九州大学人間環境学府 教育活動の状況

- 国連ハビタットが提唱し、「SDGs 11 - 住み続けられるまちづくり」に関する課題を提起・解決するための国際的プラットフォームである「アーバン・シンカーズ・キャンパス」を、九州大学大学院人間環境学府・人間環境学研究院は、在福岡米国領事館、九州大学学術研究都市推進機構、福岡市、糸島市、地域の諸団体、民間企業の協力を得て2019年8月2～9日ならびに12月5～6日に九州大学の伊都キャンパスで開催した。参加者数は156名であった。[A.1]

(別添資料 7306-iA-1)

- 2002年度より「日本・EU留学生交流パイロットプログラム」第1号として修士課程の交換留学を行う「建築と都市に関する学生の国際交流プログラム(AUSMIP)」を実施している。このプログラムで2016年4月から2019年9月までに短期プログラムで14名の学生を派遣し、本学府では10名の学生の受入を実施している。

[A.1]

(別添資料 7306-iA-2)

- 教育システム専攻においては、学術交流協定、学生交流協定締結先である、中国、台湾、タイ、ベトナム等の大学における教育学フィールドワークに、大学院生も参加し、派遣先の研究者による英語講義聴講、交流先の学生(院生含む)との英語など多言語での交流(教育学の専門テーマを含む)、現地高校生への教育学講義のアシスタントなどを通して、教育学研究者としての国際性を身につけている。[A.1]

(別添資料 7306-iA-3)

### <選択記載項目B 地域連携による教育活動>

#### 【基本的な記載事項】

(特になし)

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 国連ハビタットが提唱し、「SDGs 11 - 住み続けられるまちづくり」に関する課題を提起・解決するための国際的プラットフォームである「アーバン・シンカーズ・キャンパス」を、九州大学大学院人間環境学府・人間環境学研究院は、在福岡米国領事館、九州大学学術研究都市推進機構、福岡市、糸島市、地域の諸団体、民間企業の協力を得て2019年8月9日ならびに12月5～6日に九州大学の伊都キャンパスで開催した。参加者数は156名であった。(再掲)[A.1][B.1]

(再掲)別添資料 7306-iA-1)

## 九州大学人間環境学府 教育活動の状況

- 人間共生システム専攻共生社会学コースでは、2017～2018年度に「ボランティア・NPO 論」において、熊本県老人福祉施設協議会・福岡県老人福祉施設協議会などと連携して、熊本地震の被災地などにおける支援活動に関するアンケート調査を行い、その結果をそれらの災害復興部会に対して報告し、今後の災害時における社会福祉法人の支援のあり方に活かされた。また、2017年度に「人間共生論 I・II」において、水俣における公害に関する調査活動を地元の漁村と連携して実施し、2017年度の「水俣環境アカデミア」（水俣地域と国内外をつなぎ、水俣地域の知識・知恵・教訓を学び、伝え、現代的な意義を考えると共に、次世代のための新たな価値を創り出すことを目的とした水俣市管轄の施設）の人材データ作成にも貢献した。[B.1]  
(別添資料 7306-iB-1～4)

### <選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

#### 【基本的な記載事項】

(特になし)

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 各専門分野と学際領域の教育の質向上や授業の改善を図るために、FDは、授業評価アンケートの結果、授業改善、学際教育、教材開発に関するテーマについて主に実施し、教員の教育力向上に寄与している。[C.1]  
(別添資料 7306-iC-1)
- 都市共生デザイン専攻ならびに空間システム専攻におけるダブル・ディグリープログラムでは、日本学術振興会による中間評価および本学の国際交流総合企画会議による外部評価をもとにプログラムの改善を図っている。また、外部委員によるアクレディテーション委員会では、本事業の取組みに対して専門的視点から、「目標設定」、「3大学コンソーシアムの連携」、「協働教育プログラム」、「評価システムと情報公開」、「総合評価」の5つの観点について、4段階評価を行っている。その評価結果は概ねA評価であったが、「評価システムと情報公開」については課題が残るとされ、「国際的質の保証を確保することが大事」とコメントがあった。そこで、ポータルサイトを介して情報を随時更新し、プログラムの普及を図ると同時に国際会議への参加や国際フォーラムの開催を通して広報を行っている。また、質の保証を保った教育プログラムの運営のため、参加学生にアンケートを行い、プログラムの改善に努めている。[C.2]  
(別添資料 7306-iC-2～4)

<選択記載項目D 学際的教育の推進>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 文理横断による学際的な志向性を育むための授業科目として、「人間環境学」、「学際連携研究法」、「学際研究論」を開講している。学生主体の企画・運営による「人間環境学コロキウム」、教員の学際的な教育力向上のための取り組みとして、専攻の壁を越えた「多分野連携プログラム」、「マンスリーサロン」、心理学系教員とシステム情報科学研究所と協働で内外の研究者を講師とした講演会「Psych-Talks@QU」を実施している。[D.1]  
(別添資料 7306-iD-1~3)
- 毎年3月に開催している「学生フォーラム」は、心理学、教育学、社会学、比較宗教学、健康スポーツ科学、文化人類学、建築学といった専門分野によって構成された人間環境学府の各専攻の推薦を受けた学生による修士論文発表会であり、異分野の教員や学生と質疑応答を行う。さらに、その席上でその年度の優れた修士論文に対して授与される学府長賞（最優秀賞、優秀賞、特別賞、奨励賞など）が決定される。[D.1]  
(別添資料 7306-iD-4~7)

<選択記載項目E リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所  
(別添資料 7306-iE-1)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 教育システム専攻では、学習環境の整備として、事務業務時間外に来学する社会人学生のサポートを行う部屋「リカレント教育支援室」を設けた。また、社会人学生が授業を受けやすいように6限（18:30~20:00）、7限（20:05~21:35）に開講し、教育学部門支援スタッフを置いて、平日夜間に社会人学生の諸手続きをサポートしている。こうした学習環境については、入学オリエンテーションで、

## 九州大学人間環境学府 教育活動の状況

人間環境学府に設置された社会人教育企画室・室長（人間環境学府教員からの互選）から、社会人学生に説明し、周知を図っている。また、社会人学生については、「教育学研究入門」、「教育学研究法」で各教員の研究内容、研究方法を、一通り講義を受けた上で指導教員を選択できるよう、入学後半年間あけて、指導教員届を出すようにしている。これらの配慮の結果、教育システム専攻では、2016年度4名（修士2名、博士2名）、2017年度8名（修士8名、博士0名）、2018年度5名（修士4名、博士1名）、2019年度2名（修士0名、博士2名）の社会人入学者があった。また、学府HPには、社会人特別選抜についてのQ&Aを掲載している。こうした取り組みにより、社会人のリカレント教育の推進に貢献している。（5.1再掲）[E.1]

（（再掲）別添資料7306-i5-8～12）

- 実践臨床心理学専攻では、NPO 法人「九州大学こころとそだちの相談室」と連携して、臨床心理士として働いている修了生に対して研修会を行っている。[E.1]  
（別添資料7306-iE-2）



## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### <必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率  
(別添資料 7306-ii1-1)
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率  
(別添資料 7306-ii1-2)
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）  
(別添資料 7306-ii1-3) ※法人独自資料添付
- ・ 指標番号 14、16（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7306-ii1-6）
- ・ 指標番号 15、17～20（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 実践臨床心理学専攻における修了生の「公益財団法人臨床心理士資格認定協会資格試験」の合格率は、2016年度修了生が100%（全国平均62.5%）、2017年度修了生が87%（全国平均65.5%）となっており、全国平均に比べ非常に高く、高度専門職業人としてふさわしい学力や能力を身に付けた人材を養成していると言える。[1.2]  
(別添資料 7306-ii1-4)
- 学会などでの発表、ならびに査読付き論文の数は全体的に増加傾向にある。また、外国語による論文発表件数も増加する傾向が見られる。さらに、受賞に関しては、極めて優秀な大学院生が受賞する日本学術振興会育志賞を受賞し、また建築学関連学会での論文賞や発表賞、心理学関連学会での発表賞をほぼ毎年のように受賞しており、学生の研究水準の高さを表している。助成金に関しても日本学術振興会特別研究員に毎年採用されており、本学府の教育・研究水準の高さを表している。毎年、学生の活動が新聞に掲載され学外での活動も活発であると言える。[1.2]  
(別添資料 7306-ii1-5)

### <必須記載項目2 就職、進学>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】


- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料  
(別添資料 7306-iiA-1)


【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 実践臨床心理学専攻では、入学時、1年終了時、2年修了時にディベロップメント調査を実施し、学業の達成度や学生の意見を聴取している。2018年度に実施した調査では、入学時に比べ修了時には、心理検査、心理療法の理解度、実践度について理解度 4.0、実践度 4.0 以上（7件法）の心理検査、心理療法の数が伸び、学生の評価はいずれも高くなっている。[A.1]  
(（再掲）別添資料 7306-iiA-1)
- 学生フォーラム（人間環境学府の各専攻の推薦を受けた学生による修士論文発表会であり、異分野の教員や学生と質疑応答を行う）の後に、学府長・教員と学生との懇談会を開催し、学生フォーラムでの発表内容だけでなく、人間環境学府での学生生活などについても振り返りながら、異分野教員や学生との意見交換を行い、交流を図っている。[A.1]  
(別添資料 7306-iiA-2)

## 【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※  部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

※  部分の指標（指標 11）については、研究活動の状況に関する指標として活用するため、学部・研究科等ごとの現況調査票（教育）の指標には活用しません。